



3/20 積雪 250 cm
生紙工房裏の楮畑、冬場は楮皮の雪晒し場に

高橋の生紙工房

第60号
2025年4月3日発行
越後 門出和紙 小林康生
〒945-1513 新潟県柏崎市高柳町門出
☎0257(41)2361①0257(41)3024
e-mail info@kadoidewashi.com
http://www.kadoidewashi.com
年4回発行 年会費 920円



2月末頃、「かみわさこきの家」もご覧の通り。降るほどに景色は丸味をたらしめます。

神無月

十月十日、晴天に恵まれ、「かみわさこきの家」旗揚げの催事は、地元之母ちやんたちや弟子のイズハルが十四名のイスラエル人を連れてやつてきた。何ともロカルとグローバルが混在した面白いお祭りのようになった。

スタッフ総出で折染め、和帳作り、からむしの会の皆さんからは一閑張りなどを手伝ってもらい、スタッフ一同が新しい取り組みを覚悟する旗揚げとなった。



10/10 「かみわさこきの家」旗揚げには地元の母ちゃんたちも初体験

霜月

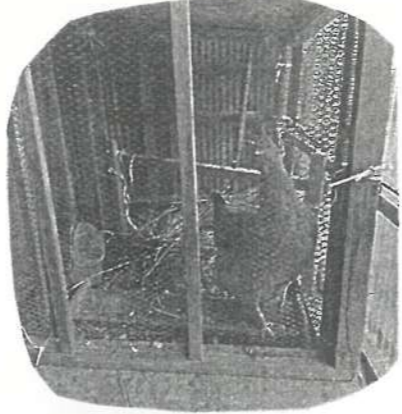
昨年の田植えの頃、五羽のニワトリがやつてきた。昨年入れた十羽は冬の間に仲間同士の喧嘩で四羽死んだ。六羽は喧嘩を防ぐため一羽のボスを別に隔離したところ、二番目のボスが現れ、やがて弱ったニワトリをみんなでやつつけるのである。一羽死ぬと次の弱者が現れる。何だか人間社会とも重なっている。理性なき本能社会は何とも厳しい。六羽は春先、二日間でイタチとテンに喰われて全滅した。

今度は(いつもは二年サイクル)冬前にすべて喰うことにして五羽にしたのだ。生紙工房裏の楮畑に夜は小屋に入っているが昼間は開放して、畑の草を食っていく肥料も・・・。

餌をやりに行くとき一斉にお互い鳴きながら散らばっていた鶏が、我が後を列になつてついてくる。何ともかわいいのである。ところがところがである。八月末そろそろ卵を産むころ、突然上空からトビがやってきて四羽を喰ってしまった。考えてみればトビにとつて逃げることを知らないニワトリは格好のご馳走。草むらに逃げたニワトリが一羽。このニワトリはトラウマになったのか餌もあまり食べない。

従つて中々卵を産まない。

冬に入る頃には潰して喰うことに決めた。ところが初雪迫る十一月中頃、初めて卵を産んだ。次から次へと卵を産み続ける。衛生的でないスタッフに叱られることを承知で工房の入り口に小さな囲いを作つて・・・今も盛んに卵を供給してくれている。



命拾ひしたニワトリは工房の来訪者を出迎えてくれている

共立女子大学(前新潟大学)の長尾雅信先生とはすっかり家族付き合いをさせていた。娘さんの通う鎌倉の清泉小学校へ紙漉きの出前授業に行くようになった。松井進一さんと女房と三人で三浦半島にある学校の自然教室を訪ねた。

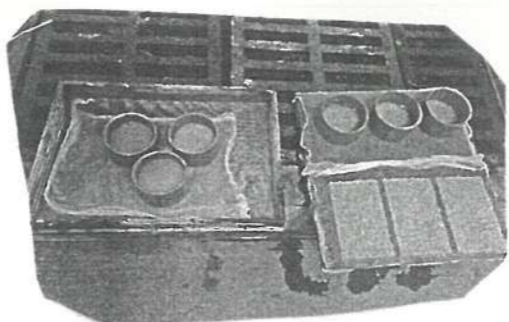


11/29 清泉小学校1年生たち三浦自然教室にて野菜の紙づくりと生紙づくり

対象が小学一年生とそのご父兄。今回は「自然の不思議」をテーマに思いっきり初めて野菜の紙づくりをやった。白菜、キヤベツ、ニンジン、大根、柿などネリはオクラを使った。金網の上にガーゼを広げ、切った野菜をミキサーにかけてオクラ液を入れてガーゼの上に流し込む。上から布を当ててスポンジタワシで水分を搾り取るだけ。乾けば紙になる・・・。

最初のお話の時、「やっちゃんと呼んで下さい」と自己紹介するとみんながやっちゃんコールで本当に距離が近くなり最後まで楽しい授業だった。もちろん生紙(和紙)のことも・・・そして何でも紙になるけど

楮が強さ、美しさ、千年の命など紙になるために生まれてきたような植物であることを話した。そして、すべてが二つから出発していても答えは二つあるんだよ。と水に濡らして繊維と繊維をくっつけると水が接着してくれるんだ。大きくなるとこれを水素分子の結合と教えてくれるけど、もう一つの答えはくっ付きたいからくっ付くんだよ。



11/29 ビニールパイプを切って丸い紙やはがきサイズの紙など・・・

その後の子ども達の発表会の様子を先生の奥様から画像で送られてきて、驚いたことに二つの答えについてしっかり理解しようとしていたことだった。

五年生にもなれば、ただ、ニタニタするだけなのに、頭の中はまだ余計な知識がない方がストレートに入るのかも知れない。鎌倉での三日間は三人にとつて何とも楽しいリセットの旅でした。

弥生

二月がすぎぶる雪多く、久しぶりに三メートルを超え、雪掘りに明け暮れている間に三月に突入。来客、テレビの収録などで「かみわさこきの家」オープン準備が進まない。

そこへきて三月二十六日、門出と荻ノ島の間の道路が土砂崩れで崩落、しばらくは水道も断水。迂回道路は雪に閉ざされて、近いところほど遠くなった。

荻ノ島から通勤するスタッフ二人は五分のところが十日町経由で一時間を要する。

会場場所である高柳町事務所より柏崎市役所なら四十分で行けるという

合飲の枝
雪帽子
五月二十日
康



生紙工房入口
それぞれの木々達は白い衣装をまとい着飾ります。

呆れた現象となった。町内の会合も市役所でやつてほしいほどだ。町を分断するのはこんなに不自由なものかと思ひ知ることとなる。

自然災害には忍耐と知恵を総動員せねばならない。そんな中でも「かみわさこきの家」のオープンと生紙市は催さなければと思っている。やれることをスタッフ一同、心を合わせてつき進めたいものだ。

【あとがき】

工房前の四羽のハシブトガラスは、毎日毎日電線の上からクルミを落とすのを繰り返す。運よく車に引かれるとそのかけらを隣の雪の上においてゆつくり食べるのだ。ニワトリ小屋に集まるスズメたちと工房の壁板を突く、アカゲラとアオゲラ。ナラの木とネムの枝はシジュウカラが代わる代わる忙しくやつてくる。

また、二メートル近い雪に覆われているから土手のカタクリや雪割草は遅れそうでもブナは雪に関わらず、四月の祭り(四月二十一日)には必ず若葉を天に広げてくれる。心ソワソワの春、我が工房も「かみわさこきの家」のオープンを迎える。

不安と希望の混じった春到来。今日、私も七十と一歳になった。ハテハテ、体と気がいつまでつづくのであろう。

四月三日 康生